

病害虫発生予報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

7月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（葉いもち）	やや多い	並	野菜	白ねぎの軟腐病	やや多い	—
	いもち病（穂いもち）	やや多い	並		白ねぎのネギアザミウマ	やや多い	—
	紋枯病	やや多い	並		白ねぎのネギハモグリバエ	多い	—
	稲こうじ病	やや多い	並		白ねぎのシロイチモジヨトウ	やや多い	—
	斑点米カメムシ類				アブラムシ類	やや少ない	—
	・アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや多い	—	果樹	果樹カメムシ類	並	—
	・アカスジカスミカメ	並	—		リンゴ・ニホンナシのハダニ類	やや多い	—
	・トゲシラホシカメムシ	並	—		リンゴの輪紋病	並	—
	ニカメイガ（第2世代）	並	早い		リンゴの褐斑病	やや多い	—
	ツマグロヨコバイ	少ない	—		リンゴのキンモンホソガ	少ない	—
	ヒメトビウンカ	少ない	—		ニホンナシの黒星病	やや多い	—
	セジロウンカ	少ない	遅い		ニホンナシの輪紋病	少ない	—
	イネアオムシ	少ない	—		ニホンナシのナンヒメシンクイ	やや少ない	—
イナゴ類	少ない	—	ブドウのべと病		少ない	—	
大豆	葉焼病	並	—		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	やや少ない	—
	ウコンノメイガ	やや多い	並	モモの灰星病	少ない	—	
	フタスジヒメハマシ	少ない	—	モモのせん孔細菌病	やや多い	—	
	アブラムシ類	少ない	—	花き	きくの白さび病	並	—
野菜	白ねぎのさび病	並	—		きくのハダニ類	やや多い	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	並	—		アブラムシ類	やや少ない	—
					タバコガ類	やや少ない	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974

情報参考 URL

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稲

1 いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。
- ・ 6月中下旬にBLASTAMによる感染好適条件が県内各地で出現している（表1）。

(3) 防除対策

- ・ 放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・ BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。なお、平年の初発確認日は7月6日である。
- ・ 防除指針 28～29 ページ参照

表1 6月中下旬のBLASTAM判定結果

月日	泊	魚津	上市	富山	秋ヶ島	八尾	伏木	氷見	砺波	南砺高宮
6月9日	—	—	—	—	—	—	—	—	●	●
6月10日	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—
6月11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月12日	—	4	—	●	●	●	●	●	—	●
6月13日	—	1	4	—	—	1	—	4	—	●
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月16日	—	—	3	—	—	3	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	—	—	—	1	1	1	—	1	—
6月21日	—	—	—	●	●	1	●	—	●	●
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	●	—	—	—	●	—	—	—

●好適条件 1～4準好適条件 —好適条件なし

2 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 30～31 ページ参照

3 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量 : **やや多い**
 発生時期 : 並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月の気象は気温が高く、曇りや雨の日が多いと予想されている。

【初発確認】

- ・ 本年の初発確認は6月25日で、平年（6月22日）並であった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 27～28 ページ参照

4 稲こうじ病

- (1) 予報内容 発 生 量 : **やや多い**
 発生時期 : 並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 前年に発生が多かったほ場では発生リスクが高いため防除を徹底する。
- ・ 防除指針 33ページ参照

5 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発 生 量 : **やや多い**

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は2.49頭で、平年（2.81頭）並であったが、7月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 斑点米カメムシ類の繁殖を抑えるため、7月上旬の畦畔および雑草地の草刈りを徹底する。
- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・ てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、コシヒカリおよび晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・ 近隣に雑草地や麦あとと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 割籾の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる

場合は、追加の防除を実施する。

- ・防除指針 40～42ページ参照

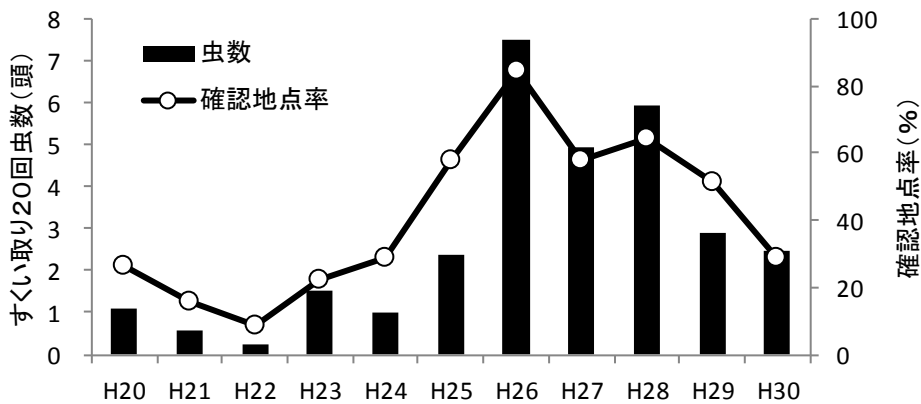


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

6 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.91頭で、平年（1.74頭）より少なかったが、7月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 40～42ページ参照

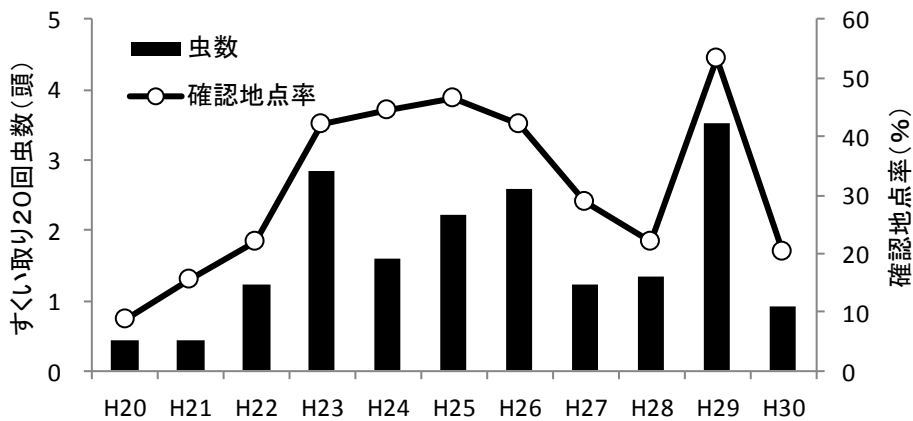


図2 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

7 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.07頭で、平年（0.13頭）よりやや少なかったが、7月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 40～42ページ参照

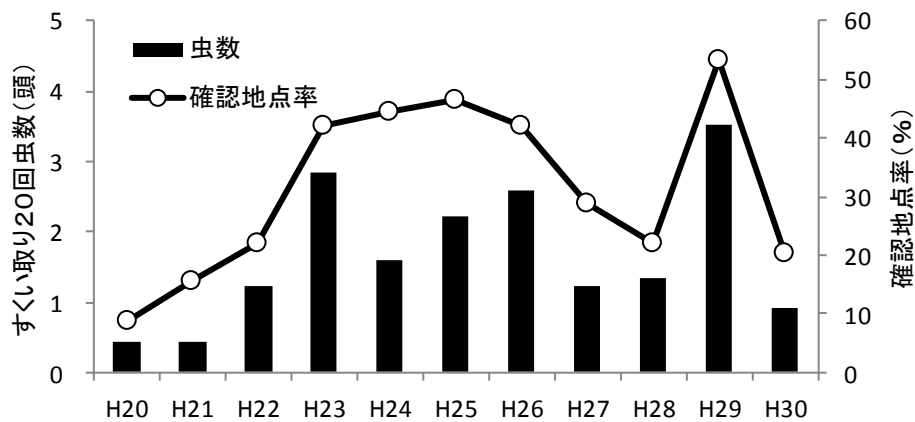


図3 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

8 ニカメイガ（第2世代）

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：早い

(2) 予報の根拠

- ・6月20日調査の被害株率は0.3%で、平年（0.3%）並であった。

【早発要因】

- ・予察灯およびフェロモントラップの越冬世代成虫誘殺盛期が平年より早かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 35～36ページ参照

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年（0.1頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 37ページ参照

10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.1頭で、平年（0.7頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 38～39ページ参照

1 1 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：遅い

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 6月20日調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年（0.1頭）より少なかった。

【遅発要因】

・ 現在、初発は確認されておらず、平年（6月28日）より遅い。

- (3) 防除対策

・ 防除指針 38～39 ページ参照

1 2 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 6月20日調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年（0.5頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

・ 防除指針 39 ページ参照

1 3 イナゴ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.5頭で、平年（3.5頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

・ 防除指針 36 ページ参照

II 大豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

・ 7月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策

・ 防除指針 52 ページ参照

2 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・ 防除指針 53 ページ参照

3 フタスジヒメハムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月25日調査の被害株率は1.5%で、平年(8.2%)より低かった。
- ・ 近年、種子処理剤の普及が進んでいる。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 55 ページ参照

4 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.0%)並に少なかった。
- ・ 近年、種子処理剤の普及が進んでいる。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 54 ページ参照

Ⅲ 野菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の発病株率は3.2%で、平年(16.6%)より低かったが、7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 発生を確認したら防除を徹底する。
- ・ 防除指針 110 ページ参照

2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の発病株率は0.2%で、平年(1.4%)より低かったが、7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。

- (3) 防除対策
・防除指針 111 ページ参照

3 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月の気象は気温が高く、曇りや雨の日が多いと予想されている。

- (3) 防除対策
・防除指針 111 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月25日調査の被害株率は53.6%で、平年(47.1%)並であったが、7月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策
・防除指針 112～113 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月25日調査の被害株率は22.4%で、平年(12.8%)より高かった。

- (3) 防除対策
・防除指針 112 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる5月6半旬～6月5半旬の合計誘殺数は14.2頭で、平年(7.9頭)よりやや多かった。

- (3) 防除対策
・防除指針 113 ページ参照

7 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～5半旬の合計誘殺数は307頭で、平年（506頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 79～147ページのアブラムシ類の項参照

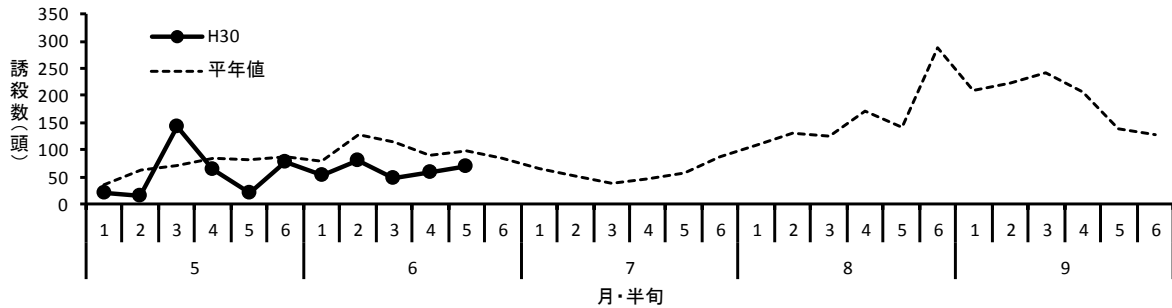


図4 黄色水盤によるアブラムシ類の誘殺数の推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・県内5地域および果樹研究センターにおけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬のチャバネアオカメムシの平均誘殺数は9.2頭で平年（14.0頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・園内への飛来が確認された場合は速やかに防除を実施する。
- ・防除指針 リンゴ 152, 157, 160 ページ、ニホンナシ 163, 168, 171 ページ、カキ 178, 181 ページ参照

2 リンゴ・ニホンナシのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・これまでの発生量は平年並であったが、7月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 リンゴ152, 158ページ、ニホンナシ163, 169ページ参照

3 リンゴの輪紋病

(1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
 - ・殺菌剤の散布間隔が開きすぎないようにする。
 - ・防除指針 152, 155, 159, 160ページ

4 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・殺菌剤の散布間隔が開きすぎないようにする。
 - ・防除指針 152, 155, 159, 160ページ参照

5 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・県内主要産地におけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の誘殺数は0.0頭で平年（842.5頭）より少なかった。
 - ・果樹研究センターにおけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の第1世代成虫誘殺数は0.0頭で平年（217.2頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・防除時期 第2世代成虫の羽化最盛期は7月上旬頃であるので防除を実施する。
 - ・防除指針 152, 156, 157, 160, 161ページ参照

6 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・県内主要産地における現在までの発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
 - ・黒星病に感染した果実や葉は二次伝染源となるため見つけ次第除去し、適切に処分する。
 - ・殺菌剤の散布間隔が開きすぎないようにする。
 - ・防除指針 163, 165, 166, 170ページ参照

7 ニホンナシの輪紋病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

・殺菌剤の散布間隔が開きすぎないようにする。

・防除指針 163, 165, 166, 170ページ参照

8 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・県内主要産地におけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の誘殺数は0.0頭で平年(0.5頭)より少なかった。

・果樹研究センターにおけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の誘殺数は1.5頭で平年(2.8頭)並であった。

(3) 防除対策

・7月中旬の防除を確実に実施する。

・防除指針 163, 167, 168, 171ページ参照

9 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・これまでの発生量は少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 174, 175, 176ページ参照

10 カキ(三社)のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・県内主要産地におけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の誘殺数は212頭で近年値(1451.3頭)よりやや少なかった。

・果樹研究センターにおけるフェロモントラップによる5月6半旬～6月4半旬の誘殺数は6.0頭で近年地(64.3頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 178, 181, ページ参照

1 1 モモの灰星病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 183, 185, 186ページ参照

1 2 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・現在までの発生量はやや多い。

(3) 防除対策

・防除指針 183, 184, 186ページ参照

V 花き

1 きくの白さび病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・6月25日調査の発病株率は0%で平成(1.5%)より少なかったが、7月の気象は曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

・防除指針 201～202 ページ参照

2 きくのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・6月25日調査の1葉虫数は1.4頭で平成(0.1頭)より多く、7月の気温は高いと予想されている。

3 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～5半旬の合計誘殺数は307頭で、平年（506頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 201～224ページのアブラムシ類の項参照

4 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月6半旬～6月5半旬の合計誘殺数はタバコガが3.0頭で、平年（9.3頭）より少なく、オオタバコガも3.7頭で、平年（6.5頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 208～228ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

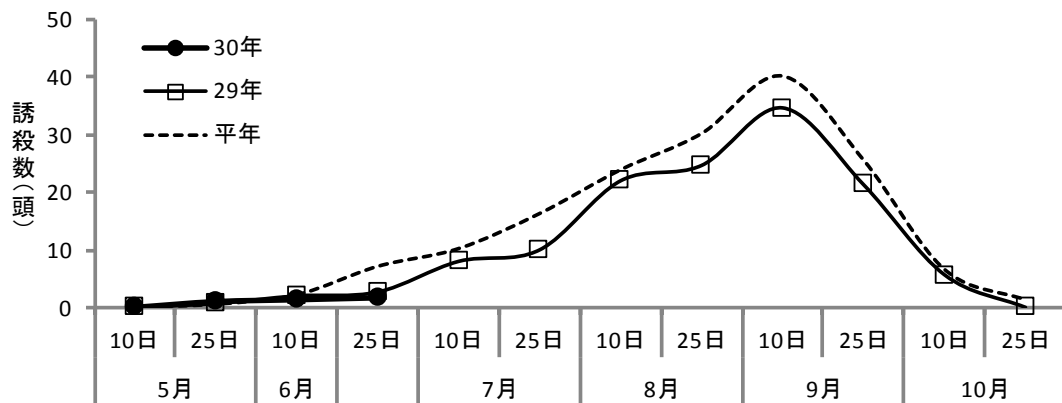


図5 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数の推移

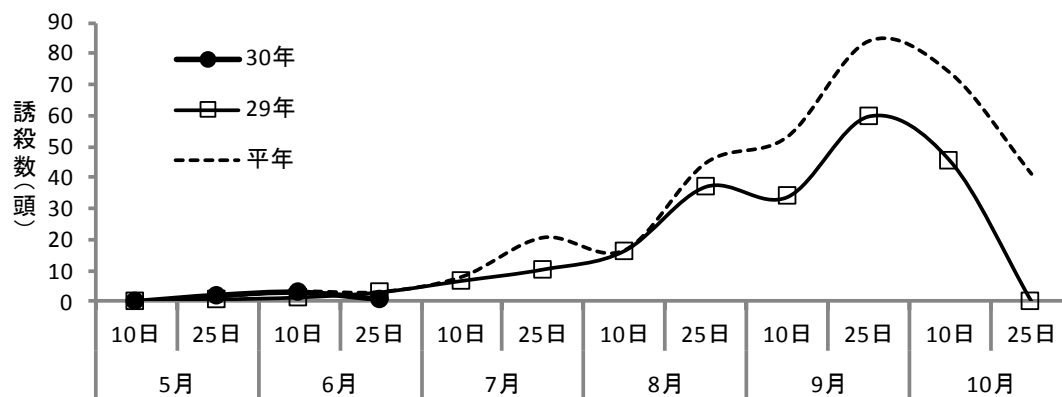


図6 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数の推移

「H30 富山県農薬危害防止運動」 6/15~9/15

1 農薬のラベルに記載された使用方法や使用上の注意事項を厳守すること！

農薬の使用にあたっては、ラベル（説明書）に記載されている使用方法を必ず読み、使用上の注意事項を確認しましょう。

2 周辺環境への配慮を怠らず、農薬の飛散防止に努めること！

農薬の飛散は、健康や水質、収穫直前の農産物の農薬残留などに悪影響を招く恐れがあるので、農薬の使用にあたっては周辺環境に十分配慮しましょう。

3 農薬は適切に保管・管理し、使用した場合は必ず記帳しておくこと！

農薬は法律によって取り扱いが定められ、適切な保管管理が求められています。また、農薬使用に係る履歴がわかるように記帳やそれら記録簿の保管が必要となっています。

4 無人航空機による農薬散布にあたっては、安全対策を徹底すること！

無人航空機（農業用無人ヘリコプター、ドローン）による農薬散布を実施する場合は、航空法に基づき、事前に国土交通大臣の許可・承認を受けることが必要です。また、安全かつ適正な農薬散布のため「空中散布等における富山県無人航空機利用技術指針」を遵守しましょう。

5 農薬を調整・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用すること！

農薬による事故の多くは、マスクや防除衣などの装備不備や体調が万全でないまま作業を行うなど作業者の不注意により発生しています。

特に、土壌くん蒸剤を使用する場合は、防護マスク等の防護装備の着用、施用直後のビニール等での被覆を確実にを行い、安全確保を徹底することが大切です。

農薬を取り扱うときは、適正な服装で保護具を正しく着用しましょう。

北陸地方 1か月予報

(6月30日から7月29日までの天候見通し)

平成30年6月28日
新潟地方气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

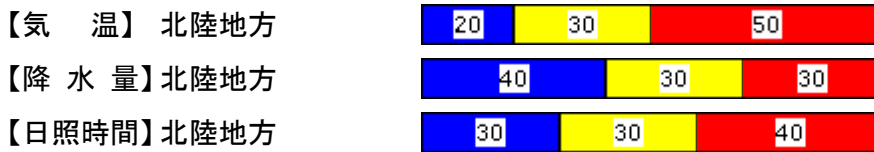
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

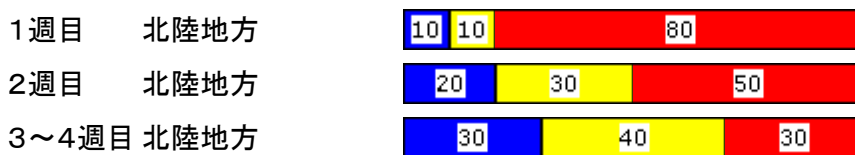
週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: 低い 平年並 高い